

令和5年度農林水産省行政事業レビュー（公開プロセス）の結果
 国有林野事業
 ＜取りまとめコメント＞

事業の課題や問題点	事業の改善の手法や見直しの方向性
● 森林の有する多面的機能の重要性に鑑みれば、現事業を粛々にこなして行くことも重要ではあるが、現ロジックモデルからは、現状の問題点およびその解決、工夫がわかりにくいのではないか。短期、中期、長期アウトカムの違い、ステップが不明確である。	● 中期、長期アウトカムの検討。
● 林業経営体や従事者が減少する中で、適切かつ計画的な間伐等の実施は今までどおりの施策や運用で継続できるのか。	● （難しいとは思いますが）中期アウトカムの「適切かつ計画的な間伐等の実施」に当たり、必要なことがあれば指標として設定することを検討してはどうか。
● 本年のレビューでは「政策効果の発現経路と目標をロジカルに説明し、事後的にデータに基づいて見直す」ことができるよう、やりとりを進めてきた。現場視察も含めて、林業が直面する課題、各種の取組の工夫を共有いただいていたが、そうした観点からすると、省人化やリスク回避に効果的なDX化といった各種の工夫にもっとハイライトを当ててもよいのではないか。	● 各種の工夫のうち、投資を集中すべき時期があれば、予算要求に反映していくべきであるし、そうでなかったとしても、政策立案や現場の工夫が反映されるロジックモデルやレビューシートでなければ、そうした知恵や苦労が外から（さらには内部においても）見えないものとなり、内外の知恵を集約することもできなくなってしまう。すでに示された効果発現の経路はこれでよいので、別の経路として、林業が直面する課題に応じた、各種の取組の工夫もハイライトして明記してはどうか。
● 公益と販売というビジネスとの両面があり、非常に重要だがアウトカム指標の設定が難しく、どのように短期・中期のアウトカムを設定すれば長期につながるか不断の検討が必要ではないか。	● 販売に伴う収入面についての結果の開示も次年度に向け検討をお願いしたい。
● 国有林の維持管理については様々な目的があるが、本事業が担う部分について、目的を分かりやすく表現し、次世代を担う国民にも理解を得られるようにする必要がある。	

事業の課題や問題点	事業の改善の手法や見直しの方向性
● 超長期的アウトカムが必要な事業の特殊性を踏まえ、サステナビリティが確保できるものとなっているか。	● 長期アウトカムを達成するためには、超少子高齢化の中で、担い手の確保が最も重要と思われるが、担い手確保、資格取得支援その他人材育成や、作業の安全性の確保、人力に代わる技術革新の取入れを行えるよう、サステナブルな事業への工夫を促すような、仕様・予定価格の設定を含めた調達を行う必要があるのではないか。
● 国有林管理は終了時点なく続く事業であるので、いかに効率的で人手を少なく行い、また、安全に行うことができるかが重要であるし、また、木材供給収入によりある程度の経済的持続性も見込めるようにしておく必要がある。それがロジックモデルなどの説明からは見えにくい。	● 事業目的やその上位の政策説明において、森林調査・伐採・維持管理のために新規技術の利用などを明示する、新技術利用などのイノベーション調達を促進することを明示するなどのことをしてはどうか。事業者も国有林の公共技術において新技術を使うことを学べば、民有林の業務においても活用できるようになる。
● 論点として示した「技術を有する専門人材の中長期的確保のための施策」については、調達（発注）の工夫や新技術の実証・普及等が提示され、いずれも妥当なもので、実態に応じて更なる工夫を講じられたい。	